

EurekaIX

六年制通信 No.9 令和3年6月11日(金)号

イライラしなくてすむ方法

朝だいたい7時には出勤しています。早起きをしているのではなくて単に早く目が覚めてしまうからです。長く寝ていられるのは体力のある証拠だとマカリスト先生に教えてもらったのですが、うかつなことに逆かと思っていました。歳を取って体力がなくなったから早起きしてしまうんですね、悲しい。

それでまだ車もそんなに走っていない道を学校へと進むのですが、たまに追い越し禁止の道(真ん中に黄色い線のある道ね)を時速30キロ未満で走ってくれる軽自動車に出会うのです。制限速度50キロの道を。私の前を。おじいさんが。想像してみてください。もし君が車を運転しているとしたら、こういう時、イラッとしますか。私ですか?ものすごくイラッとしていました。昔はね。

エレベーターが開いた時、降りようとしているのに入ってくるおじさんとお婆さん、どっちかと言えばお婆さん、イラッとしませんか。電車やバスで足を広げて座り携帯でしゃべっているオッサン、腹立ちませんか。滑舌が悪すぎて何をしゃべっているのかわからない話を延々と聴かされたら、ムカッとしませんか。あるいは自己陶醉型の講師が時間延長しようものなら、また、延長したにもかかわらず空気を読まない聴衆が質問して更に長引いたとしたら、頭にきませんか。きますよね。

まあしかし、マナーの悪い人々というのは本当に周囲をイラつかせます。しかし私は20年ほど前から「おまじない」を手に入れたので、大概の場面でイラつかなくなりました。それはね。ここで話をやめたら君たちイラッとするんでしょうね。ははっ。

いや、言います言います。あるテレビ番組で人間は生まれ変わるという話をしていたのです。島田紳助が芸能界を引退してもう10年ですか。ということは、君たちひょっとして誰かわからないのかな。お笑い芸人が番組の司会をし、それをMCと呼ぶようになったころ、第一線で活躍した人です。非常に頭のいい人で、ダウンタウンの松本が心酔していました。その島田紳助と松本人志のトーク番組でのことです。以前紹介した『ど・スピリチュアル日本旅』の著者たかのてるこ、彼女から聞いた話として紳助が言うには、人間は生まれ変わる、と。たまに前世の記憶を持って生まれる人がいて、たかのさんがチベットで会ったというのですね。そこからこの世で徳を積みば来世はまた人間に生まれ変わる。地球の生命の数は常に一定で、人間の数が増えれば昆虫や草花の数が減ったりするらしい。神様は時々昆虫と人間を入れ替えたりする。初めて人間をやっている人もいれば何回目かの人間をやっている人もいて、とそんな風な話は広がっていきました。子供の頃、隣の子と同じように先生の話聴いて勉強して

も自分は 30 点で隣は 90 点だった。これは自分の頭が悪いせいではなく隣の子がたぶん人間 5 回目くらいやったんや。エレベーターのおじさんやおばさん、電車のオッサン、自己陶醉型の講師、空気の読めない聴衆、彼らはおそらく「一回目」なんですね。

で、むかつくような人間と接した時の私のおまじないは、「何や、あんた一回目かいな。しゃーないなあ。許したるわ。二回目からは気イつけや」です。これ、有効ですよ。現在マナーよく生きていられるのなら、君はもう何回目かの人間を経験中なのですから、前世がカブトムシかなんか知らんけど初めて人間している人に腹を立てたらいけませんね。そんなことしたら、今度こっちがカブトムシにされてしまうかもしれませんから。今、ネットの世界で匿名で誹謗中傷していい気になっているバカとか、実力もないのにイキッてる人とか、痛いイタイ勘違い君とか、そんなのたくさんいますけど、あれ、来世はアリカミミズになるんでしょうね。こわっ。私たちは正直に生き、人に親切にして徳を積みましょうね。そうすれば来世でまた人間として会えるから。

ちなみに、神様は前世の記憶を消してくれるのですが、うっすらと残っているものもあるのだそうで、初めて食べたはずなのに味に覚えがあったり、そんな経験あるでしょ。あれ、前の記憶が少しだけ残っているのだそうですよ。

今週のおすすめ

- ・ 外山滋比古 『「ことば」は「こころ」』（講談社）

ここに、素敵なエピソードが書かれています。言葉に関する肩の凝らない、それでいて鋭いエッセイを集めた本ですが、「うるわしきひと」というタイトルで「マイ・フェア・レディ」を取り上げて、美しい言葉づかいについてこんな話を紹介しています。フランスのことです。

すでに 19 世紀の中ごろから、ことばは女性にとってのたいへんな宝であることが庶民の間にまで広まっていた。結婚を前にした娘さんの母親が、許婚者の青年に言う。「娘にはたくさんの持参金をもたせてやるわけにはいきませんが、ただひとつ、美しいフランス語を持たせてあります」、それに対して青年は「それは何よりのもので…」と答えたという。素敵な話ですね。美しい日本語を持たせてあります、そんな話を私は聞いたことがないのですが。

でも、言葉は難しいね。私にも強烈なコンプレックスがあります。ちゃんとした教育を私たちの世代は受けていません。例えば「交差点」、「交叉点」が正しに決まっています。「又」を使つてはいけないことになって勝手に「差」にしたのですね。政府が。それを教育界とジャーナリズムが受け入れたのです。愚かですね。私たちはこういう意味のない語を疑いもせず習ってきました。土地は「とち」なのに地面は「ぢめん」ではなく「じめん」なんてね、バカですよ。福田恒存が批判していましたが、福田先生たち昔の人はちゃんとした教育を受けているので、このあたりの感覚が非常に優れています。私は無知ゆえに批判すらできない。情けない限りです。岩波文庫は現在、芥川を「竜之介」と表記していますが私の先生の世代は絶対に「龍之介」です。「仮」もそうです。反はハン、つまり叛坂板飯などと同じハン（あるいはヘン）のグループで「假」のツクリの段はカ、ですから假は霞暇菫瑕などと同じくカのグループです。従ってそういう知識のある世代は「假説」でないと「かせつ」と読めないのですね。そういったセンスが私には欠けています。ちえっ。

BGM は Diana Ross & Lionel Richie の *Endless Love* でした…。